

現代日本戲曲大系 5

現代日本
戲曲大系



現代日本戯曲大系 第五卷 定価三八〇〇円

一九七一年九月三十日 第一版第一刷発行

一九七三年七月三十一日 第一版第二刷発行

編者 三一書房編集部

発行者 竹村 一

発行所 株式会社三一書房

東京都千代田区神田駿河台二の九

電話 東京(二九一)三一二一

振替 東京八四一六〇番

郵便番号 一〇一

印刷所 第一印刷株式会社

製本所 株式会社鈴木製本所

落丁本・乱丁本はおとりかえいたしません

収録作品の上演については、必ず著者または
著作権継承者に了解を得てください。

現代日本戲曲大系／第五卷／目次

1960

鳥には翼がない……………田中 澄江 七
お芝居はおしまい……………谷川俊太郎 四
血は立ったまま眠っている……………寺山 修司 五

1961

おまへの敵はおまへだ……………石川 淳 一〇
草むす屍……………石崎 一正 一四
ブルースをうたえ……………菅 孝行・福田善之 一七
昭和の子供……………西島 大 三六
遠くまで行くんだ……………福田 善之 三五
日本人民共和国……………宮本 研 三三

1962

スクラップ……………井上 光晴 三六

惨虐立法……………草間 暉雄 三二

1963

象……………別役 実 四九

解説……………菅 孝行 四二

解題・付作品一覧…………… 四九

演劇略年表(1961~1963)…………… 四六

装幀 坂口顕

凡例

- 作品は初稿雑誌発表年月（但し活字発表のない作品は初演年月）を基準に、同年内では作者名の五十音順に配列した。なお、年号は西暦で示した。
- 作品は原則として新漢字新かなづかいにあらためた。
- 明らかな誤字・脱字は訂正したが、送りがな・表記の不統一は原文どおりにした。
- 文中の＊および注番号は原文に従い、該当作品末尾に注釈として付した。
- 幕（場）数、登場人物・時・所の表記は原文どおりにした。

現代日本戲曲大系

第五卷

(1960~1963)

鳥には翼がない

プロローグと四幕

田中澄江

人物

山根 晴吉
山根 ひさ
小川 前所長
小川 りつ
坂井 仙造
坂井 厚
なつ子
いと
塚 本
沢 崎
郵便局 長
村 長
漁業組合 長
三沢村会議員
矢田 はる
井上 つね

学生風の男
其他村のひとたち

プロローグ

薄明の空。時間はわからない。
灯台の見張台が、空を受けるようにひろがつて
いる。その後方から海を吸いこむように口をひ
ろげた霧笛の拡声器。
見張台にシルエットの若い男の影がたっている。
伸ばした片腕の先に一羽の鳥が休んで。波の音。
岩を洗って、岩にくだける、暗い引きこまれる
ような波の音。
女の影がしのびよる。
女の影はどこへ帰るの？

男 向うだ。この水のずっと向うだ。

女 よその国と日本との間を自由にいたり来
たりできるのね。自由に。

男 俺も鳥になりたい。

女 あたくしも……でも、あたくしは自分のつ
ばさを切らなくてはならないわ……切らな
くは。

男 鳥を放つ。鳥、飛び去る。

男 鳥は飛んでゆく……おれもゆきたい……あ
なたはゆきたくないのか。

女 ええ。

男 なぜ。

女 つばさがあるから……あるから切らなくて
はならないのよ。

男 わからん。

男、足許の容器から鳥の餌の生きた魚をとって、
空から下にまく。翕然とおこる鳥の啼き声。甘

えるように迫るように。

女 今にわかるわ、きつと。

男 さあね。

女 いいえ……わかるわ。

男 さあね。(海にむかって低く重い呻き声をはな

つ。霧笛のまねである)

波の音、鳥の声、競うようにおこる。

——暗転——

その中でアイヌの歌がきこえる。その声が数人の声になり、酒宴のざわめきになるうちに——

第一幕

第一場

下のへや——そこは見張台の真下で、灯台長の住居になっている。左手は事務所。事務所の横に見張台への通路がある。

いま、まだ火の入らぬストーブを中心にした下のへやに、転任してゆく小川所長とその妻いつ、新任して来た山根所長とひさをはさんで、郵便局長、村長、漁業組合長、三沢村会議員などが並び、その前に、それぞれの食事。りつは適当に給仕している。仙造がやや末座に。なつ子とその母のいしがアイヌの衣裳でおどっている。硝子戸越しに、事務所に塚本が何か帳簿を見ているのがわかる。塚本の前に電話。

幕が上がる前から、仙造の歌がはじまっている。

局長、村長ら、手を拍っている。

マクナウシラ

アパチャヨシア

ワランニシ

カント ユリキン

ウタリオボンバレワ

リムセレヤン

アー ホイヨー

村長たち(唱和して)アー ホイヨー。仙造は歌いながら、焼酎のがぶ飲み。

山根 (句をつくっている)秋の風……岬のわかれ

……アイヌのおどり……うた……どうも新米

俳句にはさばきかねるな……(ひさに)あんた

は和歌のたしなみがあるとかって……

ひさ(適当に気どつて)いいえ……仲人のあいさ

つだけでございます……(小川に)あの……こ

のへんにはまだアイヌが?

小川 純すいなのは珍しいらしいですな……今

日は山根所長御夫妻の新任祝いに気張つてく

れたんです。

山根 小川前所長……君の転任祝いでしょう

……(見やつて)村長……郵便局長……漁業組

合長……名士総出で……名残りがつきない風

ですな。

小川 送別とか歓迎とか……そんな機会でもな

ければのんびり酒も飲めんからでしょう……

何しろ敗戦このかた、ここは日本の一番東の

岬ということになって漁業問題がやかましい

ですからね……今年になってからの密漁で拿

捕された船数が八十隻……でしたな。

組合長 もうもういやになるでがんすよ。

小川 私が赴任中に報告した回数が三百回近く

あります。これが李ラインの倍以上の数なん

ですな。……それに引揚者(なつ子やいとや歌っ

ている仙造をさして)みんな島からやつて来た

んです。島、つまり例の千島列島ですよ。

山根(仙造をさして)あのひと……や。

小川(うなずいて)……さつき駅からジープで

ここまで来られたでしょう……あの運転をし

ていた厚という灯台の傭人のおやじさんです

……あ、来た、来た。

厚、つづいて学生風の青年が顔を出す。ちょっ

と発言しかねている。

なつ子は厚を認めて、自分も声に出して歌いな

がら舞いつづける。

ひさも厚を認めて山根にささやく、りつ、気づ

いて——

りつ(厚に)なんか。

厚 あの……(前に出る)

青年 ちょっと上にあがらしてもらいたいです。

小川 今日はもう……

村長 参観はお断わりだな。

仙造(まねして)参観はおことわりだな。(歌い

出す)

局長 明日……午前中だけでしたな……所長さ

ん……

青年 今日しか時間がないんです。

小川 明日の十時から十二時……午後は一時か

ら三時までの間に来て下さい。

おとりは中断される。

組合長 参観料をとることにしたらどうですか。

三沢 異議なしですな。

りつ この頃は、無作法な参観者がふえましてねえ……挨拶もしないし、紙くずは残すし……一番困るのは、たんやつばを……

小川 いま、忙しいからあとにして下さい……

灯台は観光客のためにあるんじゃない。

青年 そうして、酒を飲みながらですか。

小川 なに？（厚）早く帰してくれ。

厚 よし、おらが見せてやるよ。こちらから。厚は、青年をつれて左手、事務所の前から上にあがってゆく。

ひさ、そっちをのぞきこむように、山根その気配にひさを見る。ひさ、もとの姿勢に。

組合長（声をかけて） おいおい……

仙造（気づいて） 厚……厚……

小川 どうかしとるぞあいつ……

局長（仙造に注意する）

山根 この灯台は近頃名物になりましたな。

局長 しかし今時分、ひとりでやってくるなんて……学生かな？

村長 前例もあることだしな……油断ならんぞ。りつ そうそう。組合長さん、皆さんに知らし

て用心させた方がいいですよ。

組合長 全くだ。（立上り）また船を盗み出されちゃ叶わんけな。じゃ、小川さん……しつれいします。あんたには色々お世話になったのも御恩返しもできん。じゃ、奥さん、どう

ぞお大事に……お見送りの時改めて。（と、両方へ会釈して去って行く）

小川 厚の奴、傭人のくせに出すぎたことをするな。仙造さん……一つきびしく言ってくれよな……新しい所長になったら何しでかすかわからん。

仙造（会釈したまま黙っている）

山根 ジープの運転手ですな。

ひさ なんていうかた？

いと（おどりつづけながら） 坂井厚。

なつ子 この頃少し変って来た。（と、おどり弱くなる）

村長 くなしりのラーゲルから帰されて……船もとられたところをこうして、灯台につかってもらえれば、文句いうところは、ねかべや

三沢 かんじんのところで邪魔が入ったな……

なつ子……もつと景気よくやれ。

なつ子 もう、おしまいだ。

なつ子と、いととは舞いおさめをする。拍手。

なつ子と、いととは、その場で、フィヌの衣装をぬぐ。首輪をはずし下にスエターと、スカート。いれずみを首にまいていた手拭いで拭きとる。

人々噴声をあげてそれらの変化を見ている。

小川 ま……ま……一つ。（とちよこをいのに渡し、

酒をつぐ。いと、受けて一飲み）山根くん……このひとたちは、みな、酒好きだね。山根 おつと……気がつかなかった……（となつ子にちよこを）

なつ子 茶わんで下さい。

山根 いいのかい。（と、あたりをさがす。ひさ、茶わんをなつ子にわたす。なつ子、べこんと）

三沢 おいおいあんまり新しい所長さんばおどかすでねえど。

なつ子（奇声をあげて笑う）

ひさ（なつ子に酌）

なつ子 すみません、御親切だね。（じっとひさを見る）

村長 三沢さんに、すっかり仕込まれたな……？ 養女だって？

なつ子（奇声で笑う）

三沢 とんでもない。わしの女房にすんだ。

皆笑う。いととは村びとについてまわり、仙造は荷作りを。

三沢（自分も笑いながら） 引揚者救済事業の一端

ちゅうわけですわ……

村長 全く。政府がもつと補償はしんけんに考

えてくれたら三沢さんがそうしてはりきることとねえのになあ……たかだか年に一万や二

万もらったところでどうにもならん、島はいつ返ることか。中央からなんぼ大臣や代議士

が来ても来た時の口先だけねえ……この十年……

事情は悪化するばかりでねえ……強いソ連には何も言わず、弱い朝鮮目がけて、李ライソンの方ばかりさわいでくるせに……三沢 そりゃあんだ……アメリカとかねあいだべし……こつちを返せ返せいえば沖繩も返せ返せですからなあ……こちら立てればあ

ちらが立たず……政府も辛いところなんだべ。
ひさ　いくつ？　あなた。

なつ子　（茶わんをぐいぐい傾けて）十九歳。生れ
故郷は日本領、くなしり島。（と残りをのむ）

ひとびと　嘆声。

いと　これ……ええかげんにしとけてば。

なつ子　そういう自分だつて一升飲んだことが
あるでねか。

いと　しべりあにおくられたお父のことと思つて
みれ……

村長　しべりあのお父より、この村のお父か。

三沢　お父でないてば……一つこれから今度見
えた灯台の奥さんに花嫁修行の女芸百般を仕
込んでもらわなくてはと思つています……よ
ろしく。

山根　女芸百般っていうと（ひさに）何々かな？
ひさ（しずかに）わたくしなにもできませんの
よ。

なつ子　こつちもお酒につよいだけで……

いと　なつ子……（ひさの傍に行き、酒をすめる。
ことわれ、何か話しかける）

なつ子（ひさを無視して）しべりあにはもつと強
い酒があるつてよ……（仙造に）なあ、おじさ
ん……くなしりでソ連がやって来た時、時計
とひきかえて飲ましてもらったべさ。……火
の酒。熱いの……燃えてしまうの。

三沢　仙造さんもしかし酒、氣つけた方がいい
なあ……まだまだ島さ帰ればいくらでも働け
るからだだもんなあ……

仙造（無視して大声で江差追分を歌い出す）　「松
前江差のつばなの花に……」

いと（ひさに）どうぞよろしく。手伝いだけ、
どつたらこでもしますだから、どうぞ……

仙造の歌につづいて合の手をいれる村のひとび
と。

山根（ひさに）これが江差追分だ……おれがは
じめて北海道に赴任したとき連絡船の中でこ
れを聞いて、いかにも蝦夷の地に渡るとい
う氣がしたな。

りつ　でもいいじゃございせんか山根さん
……今度はこんなにお若くおきれいな奥様と
御いっしょで。

小川　仲人のあいさつがなかなかのものだった
そうだな……新郎は十年の孤閨を守り、新
婦は両親亡きあと十年……孤児の家庭を守る
……まさに良縁であります。

りつ　何しろ本省の次長さんのお姪御さんを奥
さまに……

山根　そいつはかんべんして下さい……わたし
は茅野ひさ子という一人の女性と結婚したん
です……

りつ　あらどうして？　いざつて時にどんなに
たよりになるでしょう（ひさに）いかが？　灯
台は。

ひさ　はい……まだわかりませんけれど……

山根　このひとは海が好きなんだそうですよ
……見合の時に先ずその話だった。
りつ　お父さん……（と、甘えて小川の方にしな

だれる形。わらい）
小川　結構ですな……生臭い世の中に未練のあ
るようなのは、灯台にはむかないのだ……う
ちのは始めから都会地の近くへゆきたいゆき
たい。

りつ　子供の教育のことがあるからですわ……
お産や病氣の度にどんなに心細い思いしまし
たか……今度大阪へゆくのが三十年目にはじ
めて……あとは人里はなれた岬ばかりで……

山根　こちらはひとにあわぬ場所にいきたいっ
てことでした。な……あなた。
りつ（あてられて）あーら。じゃ。（と、山根につ
こうとする）

山根　いやもう……十分に……（と盆をかえす）
ひさ（徳利をとつてりつに）どうぞ……

りつ（受けながら）山根さんは酒豪と承わつて
おりましたのよ……おうらやましいこと……
心機一転で……

小川　おれも減らしていいぜ……便利地転任記
念に、なあーんて。
皆のわらい。

山根（外に声をかけて）塚本君……だったかな
……君もここへ来てどうだね……ビールでも。

塚本（灯室から事務室に入りながら返事して）は
……勤務中ですから……

小川　今見張台の方には沢崎君かね？
塚本　いや……厚とさっきの若い男と。

小川　まだおらんか。（山根に）このあたりで氣
をつけないければならないのはね……密航者で

す……海をわたる……

山根 何を目的に？

小川 ほら、南樺太時代にいましたな、女で越境したのが、今じゃ向うで名士になってるのが。

ひさ ソ連の人間になりたいとでもいうんでしようか。

小川 こちらがねがうようにしかし向うはうけてくれないですよ……うまくわたれてスパイ容疑でラーゲルおくり。このへんの海はひどい潮の流れで何人もわたりそこねて死んでいきます。

ひさ ま……

村長 (山根に) 厚には氣つけた方がいいたすな。(うとうとしている仙造を見ながら) 一寸した噂もあるし。

局長 拿捕事件以来、ぼけただ。眼つきも変だ。

……おい、仙造さん！ 灯台から何ぼもらってるか知らねども、よめさんでも、もらえやすぐしやんとするだろう。厚の嫁御はなつ子……(と言いかけて) いやあ……は、は、はは。(と、ごまかす)

三沢 (平気で) 厚となつ子が？ 初耳だ、はははは。(とわらう)

なつ子 そうよ。あんたのこと何てよぶの。お父さん？

三沢 こりゃいい、はは……ちよつと来いや、ここさ。
いと なつ子！

なつ子、三沢の膝に行く。

村長 はれはれ灯台の衆が眼を白黒してござるじゃないか。

小川 いやいやこれもこの村の様子を理解してもらう一端となる……山根くん……三沢村会

議員は根室に今度旅館兼料亭をつくられたんだ……

三沢 根室も戦災でやられてすっかりさびれましたが、わたしは新趣向でゆくべと思つたります……ま……奥様も一度御清遊に。

なつ子 どうぞ。(とひさにつく)

ひさ あたくしはだめ。

なつ子 いいでねえの、そんなに上品ぶらなくたって。

いと、なつ子をたしなめる。

りつ なつ子さん……ものごとは初めが肝心よ……あたしたちは明日は転任してゆくんだからかまわないけれどあんたもこの灯台に出入りするなら氣をつけてちょうだい。

なつ子 小川所長の奥さんには信用ないんだ……わし裁縫もお花も途中でけいこほっぽって……(と酒をのむ) でもさ……のんびりとそんなことやつてられるのは灯台の衆ばかりだもの……あたしらひきあげ漁師の娘なんて、狭い砂浜にひついて他人のおしあいへしあいしてるすきまをよ……はつかねずみみたいにあつちへちよろちよろ、こつちへちよろちよろでしやう……とてもお上品なことしてたんだば……

三沢 かしな……お前もおれの女房になるんだからよ……少しはお上品になつてくれや。

……(ひさに) 奥さん……一つ、こう習字からはじめてもらえんでしょうか……女子大國文科の御出身だそうで……

なつ子 しゅう……しゅう、じ？

村長 なるほど……そんだけ奥さん、女のイン

テリだな。

ひさ 学校なんて……それに、入っただけですぐ出ましたから……

りつ (ちよつとみだらなわらいで) 山根さん……

評判ですの……この十一月の灯台記念日にはうちもあなたも勤務三十周年で表彰されますのでしやう……何といつても夫婦そろつてその日に天皇陛下におめにかかれるのが一番のよろこびですものねえ……それに間に合わせで新しい奥さまを……

小川 よせ……お前のいうことはすべてオーバードだよ。

ひさ (茶わんをおいてじっと耳をこらす)

山根 (ひさにつこうとして氣づいて) 何？

ひさ 何でしやう！ 鳥が鳴いてますでしやう？

りつ たくさん。

りつ あれね……ごめですよ……ロマンティックな声でしやう……

山根 なるほど……さいはての鳥か……

りつ 厚さん……ごめに餌をやつて下さいよ。

厚と青年が下りて来る。

青年はだまつて右手に出てゆき、厚はちよつと

りつの方にうなずいて又出てゆく。

ひさ (窓へたち上る)

りつ どちらへ? 奥さま。

ひさ 海を見ますの……

なつ子 へえ!

山根 海なんてこれから毎日見なくちゃならぬいぜ。

小川 何しろ灯台の真下一カイリ……千四百米をこえると外国だなんてのは、日本じゅうでここ一ヶ所ですから……沖の漁船が、国境線をこえないように見張るだけでひと仕事です。

三沢は窓辺のひさの傍に行つて説明する。元の座に戻るとき、ボケットの株式新聞を山根に見せる。

局長 まあ奥さま……とにかく見て来て下さい

……北にくなしり、えとろふ島……すぐ眼の前に呼べば答えるばかりの貝がら島から水晶島……秋勇璃島……勇瑠璃島……みんな戦争までは日本の領土だったところですよ……あたしや十何年たつたいまだにあれがソ連領だなんてどうしたつて思える事じやないな……

村長 島が返らない事にやこの村も上つたりでしてよ……一年十二月のうち、海に出られるのは約半分……その半分は流水に埋もれて……もともとと漁獲高が年々減つて来たところ……ここにこういふ……おい、仙造、おきれちや、こういう引揚げ漁民一万八千をかかえこんでるんで……

仙造 なんだつて……引き揚げが悪いのけ、引き揚げが。

ひさ驚いて仙造をふりかえり、たちどまる。

村長 何……お前たちには何の責任もねえさ

……日本が負けたつてことだ。

局長 いや日本が負けた勝つたじやないな……

大事なのは政府のやり方だ……負けたあとと千島からハボマイ・シコタンを見すてたまんまだ……そもそもヤルタ協定とポツダム宣言で……

小川 禍根を残したのはサンフランシスコ条約でしょう……あつさり千島を見すてしまつた。

三沢 捨てたのではねえですよ……それはだんな……吉田首相が声と涙の大演説ばして……(まねして)日本開国当時から南千島の二つの島、即ちエトロフ、クナシリが日本領土であることには帝政ロシアも異議をさしはさまなかつたところである。

山根 しかし李ラインよりひどいとは知らなかつたな。

村長 何しろ東京の新聞にはこつちの拿捕のこととはあまり出ておらんでしょう……東京には文化人が多いから。

りつ あら文化人とそれとどういう? 村長 文化人はソ連びいきだ……ソ連のやることには文句つけないのだ。

三沢 そこで……(まねして)わが党としては是非とも国際情勢の変化を待つて領土返かん

を……

局長 十年一日の空念仏ですよ……それより領土問題はあとにして、とりあえず漁民のために入会権を設定し、安全操業は……

三沢 いやいや領土を捨てては、国民感情が許さん……

小川 しかしだ……領土にかかわつては限り、ソ連はあゆみよつて来んで……拿捕は年々きびしくなるばかりだ……

三沢 そりやわかつてる……国民としてはだ……灯台の見張台さ上つて眼の前でソ連の監視船におつかけられる漁船を見て悲憤の涙は流さぬものは一人もおらんでしょう……

仙造 そんだ、そんだ。

三沢 こちらはたかが十ノット……あちらはその数倍……走る……追う……追う……走る……

……手に汗を握り血沸き肉おどるなんてものじやない……舷側にびつたりついたりしたソ連船……しおしおとうなだれる日本人漁夫の姿……やがて日本船はローブにひかれてゆく。

(この話の間なつ子と仙造は又飲み、片づけものをして……)……誰があんたこれを見すておかれましよう……不肖三沢俊之はですな……一村会議員でありますけれど……(うっかり)粉を骨にし身を碎きまして……

村長 ま! 三沢さん……そのつづきはいずれ村会の議場でうかがうことにしますです。一同 (笑う)

ひさは立ったままへやの窓越しの海を見ている。といつても重苦しい灰色の霧が海かわからない。

小川 山根くん……あなたも、これから否応なしに毎日この問題をきかされますよ。

りつ 早く島が返るようにたのむか……領土はとにかくとして魚だけとれるようにたのむか……ね、……その二つに村がわかれて……

村長 新しい所長さんはどちらの意見を支持されますな。

三沢 目先きのことばかり目くらまされねえですよ。

山根 まあ、おいおい勉強して……

小川 航路標識事務所の職員の本分は先ず灯台の灯がたえぬように灯器の点検やレンズの手入れをするのが先ですから……

局長 この岬の灯台長つれて来たら六十万円やると言われた船員があるそうですな……仙造さん……三月前拿捕されたとき厚も何か聞いて来なかったかや？

仙造 ばかな事言わねでけれ。新しい御夫妻に厚がどつたら悪ものと思われるじゃねえかね。ひさ、この時へやを出て見張台の方へ上ってゆく。

山根 (窓越しに見て) ガスがかかって来たな。

(ひさに) 上へいっても何も見えんぞ。

沢崎 所長……霧笛をかけます。

小川 おつ……たのむよ。(と立ち上る) この辺は一年の三分の一は霧笛が鳴りつぱなしです。

山根 (たち上って) ガスはまだ始末がいい……わたしは戦前占守島の東北端で平均風速五十米つてのをずっと観測しました。気象月報や報告はここでは輪番制ですか？

小川 それがねえ、少数精銳主義……無線には熱中するが気象の方の研究はあんまりありませんが、将来新しい管理方式になつて、気象の測候など無人化される傾向があるからでしょう……(ふりかえって) あ……どうぞ皆さん……御ゆっくり……一寸、案内して……

霧笛鳴り出す。

局長 さあてと……どうも御馳走さんでした。りつ あらまだ……(よろしいじゃありませんか)局長 なつちゃんのおどりがもう一度見てえな。なつ子 へ……あんなこと。(と、局長をたたく)三沢 なつ子！ そいつを根室の店でやってくれよ、な。ははははは。(とわらう)

仙造 あたりを這いまわり、のみ残しの銚子をふって見ては飲んでいる。

りつ (いとに) ちょっと……ここはわたし一人で片づけますから……(と、仙造の方を眼で)いと へい……仙造さん……そろそろこんぶの船が上る頃だよ。あんたも手つだいにゆくんだらう……さ……わしもゆくすけ一緒に……仙造 おれには売る娘もなしなあ……いと 息子がおるじゃねえか。

仙造 それがさつきの通りだ。この頃、なに考えてるのかわからねす。ああ！ くなしりの

女房の墓はろすけのローラーでなめされてトラックさ走っているしよ……いつそ墓はあばいて骨にしてと、何度思ったかしんねえだ。村長 わかつたわかつた……

三沢 さ、こんなの放つといわしらも帰るべ、帰るべ。

仙造 おい、三沢、逃げるのか。(台所の方へ声をかけて) おいなつ子……こきさ来い……お前と厚とはくなしりの幼馴染みだ。なして三沢の女房になるだ……え？ 一寸の虫にも五分の魂つてこと知ってるか……三沢つて野郎はな……おれがくなしりひきあげておちぶれると、昔の恩は忘れちまつてよ……なんだかんだと米一升わけてくれず……あげくの果て、めんこい息子の女までとり上げようって人間だぞ。

りつ、事務室の方へ走ってゆく。

三沢 仙造さん……わたしも村会議員のはしくれだ……あんまり体裁の悪いことは言わんでもらいたいね……あんたにはこれまで船を買う、家たてる、二万三万と用立てたのがつもりつもって二十万にはなった筈だんべえ……あんたいったことあるべえ……この御恩は一生忘れない……あたしや三沢さんの家にむかつて一生足をむけてはねませんといったのは、だれじゃ？ おい……なつ子でて来んか……この場で……厚とはつきり手さ切れ……洋裁から料理から女芸をならってだな、かせぎ手の男の奥さまにおさまつてちくな暮ししたい

といつてやれ……

仙造 よし、大事なこと言つてやる。(叫ぶ) なつ子……

小川 がりつとくる。

小川 困るな……いま霧笛の音を調整してるんだ……ここは集会所じゃないんだから。

りつ 今度の奥さんはあたしなんかとちがつて人ざらいですつて……もうみんな出入りおことわりよきつと……

いと (仙造に) 言いがかりはもうやめてけれ。

お前たち日本人は、むしろアイヌから北海道とりあげたんだ。今、千島から追われたからちゆうて、世の中は強い者勝ちだべ、因果応報だべ、ははははは。

仙造 何を……娘売りやあがつて……

いと お前さまの息子だつて何してるかわからねえだべ……

仙造 何……？

いと ソ連にとられたお前さまのうちの船つてのがよ……東の浜にひょっこり浮んでるのを見たものがあるつてよ。

仙造 厚がスパイしてるつてのか、スパイを……

りつ そんな大きな声……

小川 そんな話は外でやつてくれ、外で。

村長 (局長に) 行くべ。

この時、なつ子が入つて来る。

なつ子 何だか浜の方で騒いでるよ、浜の方で村長……ちぎ生……さっきの奴かもしれないねえ

な。(と出口に)

三沢 バカモンが……このガスんなかを船さ出しても漂流するにきまつてるじゃないか。(と出口に) 仙造さん、厚じゃねえかな。

仙造 (三沢に迫つて) 厚が？ 厚がなんでひとの船とるだ……あんまりなめた事言いやがると……

なつ子、三沢をかばう形に。

仙造 どけ、なつ子、どけ。

なつ子 おらがお父だもん、はは……

三沢 はは……

いと、なつ子の手をひく。

厚が、釣竿をもち、へやの前を通り、右手から左手奥へ、事務所の方へ入つてゆく。

仙造 厚……

りつ さ、じゃ、このへんでお開きにいたしまししょう。これであたしの片づけじまいだ。

霧笛鳴りつづけている。

——暗転——

第一幕

第二場

見張台の上、ひさ、海にむかつてたつている。鳴りつづけている霧笛。

ひさの頭の上にその大きならっぱのような仕掛けがある。

山根、灯塔のある上から下りてくる。

山根 何だらう……浜の方に人が走つていった

が……視界一〇〇米……霧笛泣きソ連は見えぬこんぶとり……泣きはおかしい……吠えにするか……霧笛吠え……

ひさ なぜあたくしが、あなたと御一緒になつたかといえ……

山根 あんたの見たたい海に霧はなかったらう……どうだ……この色……暗い重い……

ひさ あたくしがなぜあなたと御一緒になつたかといえ……ただ……海が見えなかったの。

山根 問題の海はいやだつてわけだ。

ひさ あなたは子供がはしくて結婚なさつたの？

山根 あんたはあかるいことも暗いことも見境がないな……最初からおどろかされた……上野からたつて、根室に着くまでに、あんたはなんべん、死ぬつて、言葉を使つたらう……(メモを出して)

ひさ あら。

山根 荒川を渡るときこんなに汚い川で死ぬのはいやねえ……福島で、あだたら山が見えたら、高村智恵子の死ぬ前になつたかしたのはこの山よ……船が函館に着くと、とうや丸で死んだひとは、どのへんにあげられたんですか？

ひさ ね……この下の海を泳いで、ソ連に行くうとしたら死ぬかしら。

山根 (舌打ちして) この手すりからがけにとびおりても死にますよ。

ひさ でもあなたもあたくしもいつか、死ぬこ